

省エネ車レースで3位

但馬技術大学校・自動車部



燃料計測を見守る立脇さん(左)=11日、シンガポール(提供)

世界最大規模 悪天候、トラブル乗り越え

県立但馬技術大学校(豊岡市九日市上町)の自動車部が、9～11日にシンガポールで開催された省エネカーレース「シエル・エコマラソン・アジア」で、3位に輝いた。悪天候や難コースに苦しみつつも、好成績を残した同部。唯一の部員で16日に卒業した立脇将司さん(24)は、2年間の経験を次のステップにつなぐと誓った。

(戸田大貴)

大会は、学生を対象とした世界最大規模のレース。2部門5クラスにアジア・オセアニアの18カ国から約130台が参加。規定時間・距離の走行燃費を競った。

大会は、学生を対象とした世界最大規模の部門で31台中の3位に輝いた。

軽油を使用するディーゼルエンジン車で出走した同部は、1日当たり1227キロを記録。終盤に2位に浮上するも、最後に中国のチームに逆転され、「プ

車体の剛性を高めるなど改良に努め、万全の状態で開催に臨んだ同部。大会前日の約2時間の試験走行が大雨の影響で15分しかできず、練習中に他チームの車両が衝突するなどトラブルに悩まされた。コースも昨年に比べてヘアピンやS字の

ような特殊なカーブがい

多く、直線が少なかったため、難度も上がっていたという。

自動車部での活動の集大成となった立脇さん。春からは同市内の自動車整備業に就職する。記録は目標燃費の1500キロには届かず、悔しさが残ったが、「安全作業や車を大事にする大切さなど、人の車を触る上で一番重要なことを学べた。貴重な経験ができた」と、2年間の振り返った。

2015年から2連覇を達成し、昨年は2位と好成績を残してきた同部だが、立脇さんが卒業して部員は0人。藤井俊成顧問(43)は新入生の入部に期待しつつ「興味本位でもいいから一歩を踏み出してほしい。普段できない体験を通して、知見を広げてもらいたい」と話した。